

平成 28 年度第 1 回宮崎県河川整備学識者懇談会

議事抄録

1. 開催日時

平成 28 年 10 月 12 日 13 : 30 ~ 16 : 00

2. 開催場所

日向市中央公民館

3. 議題

3.1 開催

3.2 あいさつ

3.3 出席者紹介

3.4 宮崎県河川整備学識者懇談会について

(1) 懇談会の設置趣旨及び委員選任について

(2) 会長選出

3.5 議事

(1) 五十鈴川水系河川整備計画（最終案）について

(2) 庄手川、浦上川の環境調査の結果とりまとめについて

(3) 庄手川水系河川整備計画（素案）について

(4) 浦上川水系河川整備計画（素案）について

(5) 今後のスケジュール

3.6 閉会

4. 出席者

(委員)

所属	役職名	氏名
宮崎大学	名誉教授	杉尾 哲
宮崎大学工学部	教授	村上 啓介
宮崎大学	名誉教授	神田 猛
宮崎大学農学部	教授	三浦 知之
宮崎県弁護士会	弁護士	松浦 里美
宮崎県土地改良事業団体連合会	常務理事	三好 亨二
綾町役場エコパーク推進室	照葉樹林文化推進専門監	河野 耕三
NPO 法人 宮崎野生動物研究会	副理事	中村 豊
鉦脈社	専務取締役	川口 道子
県文化財保護審議会	前会長	甲斐 亮典

(事務局)

宮崎県県土整備部河川課	課長	阿佐 真一
	計画調査担当リーダー	戸田 正人
	河川担当リーダー	宇治橋 正行
	計画調査担当	甲斐 裕之
	計画調査担当	久保田 修司
	河川担当主査	森川 慎也

(配布資料)

	第1回懇談会次第等
資料-1	指摘事項と対応
資料-2	五十鈴川水系河川整備計画(案)
資料-3	流域の特徴
資料-4	環境調査の結果とりまとめ
資料-5	庄手川水系河川整備計画(案)
資料-6	浦上川水系河川整備計画(案)
資料-7	今後のスケジュール
資料-8	現地調査資料
参考資料	確認種リストまとめ

5. 議事抄録

議事	議事要旨
1.開会	【事務局】 事務局により配布資料確認
2.あいさつ	【課長挨拶】
3.出席者紹介	【事務局】 事務局により出席者の紹介
4.懇談会について	
(1) 懇談会の設置趣旨について	【事務局】 事務局より懇談会設置要綱の説明
(2) 会長選出	委員の互選により、杉尾委員を会長に選出。
3.議事	
(1) 五十鈴川水系河川整備計画（最終案）について	<p>【事務局】</p> <p>事務局により五十鈴川水系河川整備計画について説明（資料-1、資料-2）</p> <p>委員）資料-2 P.28、図中の文字表記を修正すべきである。 事務局）標記を修正する。</p> <p>会長）資料-2 P.16、今年の大形の台風(H28.9)も追記すべきである。また、P.28 図 5-1 位置図にも P.29 図 5-2 流量配分図と同様に小園井堰を標記すべきである。 事務局）修正する。</p> <p>会長）整備が完了した場合、どの程度の洪水被害が軽減されるのか。 事務局）計画にある河道掘削と築堤を実施することで、今年台風よりも浸水域の大きかった H16 年洪水規模の洪水に対しても、ほとんど浸水しなくなるはずである。</p> <p>委員）資料-2 P.30、「さらに、設計規模を超える～」という本文標記があるが、工法を記載していないのは何故か。また、そもそも設計規模を超えてしまうということは問題ではないのか。</p> <p>会長）整備計画に詳細な工法まで謳ってしまうと、それに縛られてしまうことになる。</p> <p>事務局）具体的な工法に関しては、詳細設計の段階で検討する。</p> <p>委員）今回の設計規模はL1を想定しており、L1に耐え得る設計を行う。</p>

	<p>それを超過するL2に関してはソフト対策をメインで行い、粘り強い堤防整備を行うことでそれをサポートするという意味がある。</p> <p>事務局) L2レベルの津波に関しては、国ではソフト対策で対応するという方向性を打ち出しており、その際に避難時間を稼ぐという意味合いも含めて、粘り強くするという表現で記載している。</p> <p>委員) 資料-2 P.30、「施設の効果を粘り強く～」との記述があるが、この施設は具体的にどの施設を指しているのか。</p> <p>事務局) 具体的には堤防を示している。</p> <p>委員) 資料-2 P.30、本文中で、南海トラフ地震の記述があるが、それ以外の地震対策は、明記しなくてよいのか。</p> <p>事務局) 様々な地震を検討した上で、最も規模の大きかった南海トラフ地震及びL1津波を標記している。</p>
<p>(2) 環境調査の結果とりまとめについて</p>	<p>【事務局】</p> <p>事務局により庄手川、浦上川の環境調査結果について説明 (資料-3、資料-4、資料-8、参考資料)</p> <p>委員) 参考資料 現地視察の際、浦上川下流域にてアシハラガニ及びフトヘナタリを発見したのでリストに追記して頂きたい。河口付近は生物相が貧相だが、都市河川合流点付近の寄り洲は多様性を持った環境が形成されている。</p> <p>事務局) 生物リストに追記する。</p> <p>委員) 資料-8 P.4、浦上川 ハビタットの欄に「高水敷部ではハマサジが見られる」とあるが、ハマサジが見られるのは干潮帯である。P.8、浦上川 ハビタットの欄に、中流部の貴重な環境である山付き河岸林に関する記述が見られない。P.17、庄手川 ハビタットの欄に「長谷川合流部より上流部では河道内のヨシ群落等が多く見られ」とあるが、ツルヨシ群落の間違いだらうと思う。以上の点を修正頂きたい。また、帰化植物についても生物リストで区分に関する注釈の追記を検討いただきたい。</p> <p>事務局) 記述を修正する。</p> <p>委員) 調査以外の現地視察等の際に見つけた種も、全て確認種としてリストアップするのか。調査時に調べきれない種がある、調査の方法も含めて統一すべきなのではないか。</p> <p>会長) 河川にその種がいるかいないかが大切であり、調査外で報告された</p>

	<p>種についても適宜リストに入れるよう対応しており、調査方法にはあまりこだわらずリストアップしている。</p> <p>委員) 浦上川でチョウゲンボウを現地視察時に確認したので、リストに追加いただきたい。</p> <p>委員) 浦上川において、河口の干潟に対する河川改修による影響を考慮する必要があるのではないか。</p> <p>事務局) 今後検討していく。ただし、下流区間の大幅な改修は検討していないため、今後大きな影響を及ぼす可能性は少ないと考えている。</p>
<p>(3) 庄手川水系河川整備計画(素案)について</p>	<p>【事務局】</p> <p>事務局により庄手川水系河川整備計画(案)について説明(資料-5)</p> <p>委員) 資料-5 P.9~10、P.3 において「豊かな自然環境」という記述があるが記述が抽象的であり、文献調査の不足を感じた。流域で確認された希少種も少ないと感じる。「日向市の自然」等を参考にして頂きたい。</p> <p>事務局) 今後、ご確認させていただきながら検討する。</p> <p>委員) 資料-5 P.10、文献名、出典についてどのデータを使ったのか明記すべき。P.5の写真引用標記に関して、L.7「写真①」⇒「写真①上」、L.21「保護上重要な種」やオオジュリン等の採餌場(写真③)→「保護上重要な種(写真③)」やオオジュリン等の採餌場」とすべき。</p> <p>事務局) 修正する。</p> <p>委員) 防潮堰の上下流で津波対策の優先度は異なるため、当該河川の特徴として整備計画に示すべきである。</p> <p>事務局) 現防潮堰はL1対応ではないため今後詳細検討を行い、対策方法に関しては細島港との整合を図った計画が固まった段階で懇談会にて審議予定である。</p> <p>委員) 資料-5 P.19、整備計画期間に関して約20年を想定しているが、具体的な基準はどうなっているのか。</p> <p>事務局) 維持管理を含めて20年としている。20年としているのは、法律の解釈として、概ね10年から30年以内というような書き方があり、県の期間として20年を設定しているところである。ただし、適宜変更が必要になった段階で審議する予定である。</p>

	<p>委員) 資料-5 P.24、地震・津波対策に関して共通事項とせずに川の特性に合わせた記述にすべきではないか。ハザードマップ等の視覚的な資料の導入や、ゲート操作に関する記述も入れるべきではないか。P.25、水質に関する指標等も個別に入れた方が良いのではないか。</p> <p>資料-3、4の16対象河川の並びは北から順に記載した方が見やすいのではないか。</p> <p>事務局) 資料-3、4の記述形式に関しては今後検討していく。市が出しているハザードマップは想定最大のレベル2で作成されているのに対し、河川で整備するのがレベル1になるので、対象としている規模が違うものであるため、混同させることができない。整備計画共通事項については、特徴的な河川に関して個別に記述の追加等、今後検討していきたい。</p> <p>委員) 防潮堤の撤去は想定しているのか。</p> <p>事務局) 塩害による水利用への影響が懸念されるため、撤去は難しいと考えている。</p> <p>委員) 資料-5 P.16、環境学習の写真は管理区間内か。</p> <p>事務局) 管理区間内である。</p> <p>会長) 資料-5 P.21、整備計画の対象流量が記載してあるが計画規模ほどの程度なのか。また、P.15、小手頭首工の写真が記載されているが地図上に図示すること。</p> <p>事務局) 庄手川の計画規模は$W=1/30$である。また、標記は修正する。</p>
<p>(4) 浦上川水系河川整備計画(素案)について</p>	<p>【事務局】 事務局により浦上川水系河川整備計画(案)について説明(資料-6)</p> <p>委員) 資料-6 P.9、河川利用に関する写真が入江干潟の写真になっているため、河川内での写真に変更すべきである。また、浦上川は入江に流入するという特殊な環境であるため、河川整備に伴う干潟への影響について、P.5の自然環境の記述に追記すべきである。入江の生物データ等はないのか。</p> <p>事務局) 修正するとともに、入江の生物データについて確認する。</p> <p>委員) 資料-6 P.7、表12の見出しに重要種とあるが、これまでの他河川の資料では希少種と表記していた。何か意図はあるか。また、妙見入江湾奥の河川にて木の根付近でアカメを確認したため、入江環境に注視すべき</p>

	<p>である。浦上川も良好な環境のポテンシャルを有している。 事務局) 修正する。</p> <p>委員) 資料-6、P.5,18、自然環境の章の記述にスダジイ等の中流域の植生も追記すること。 事務局) 修正する。</p> <p>委員) 資料-6、P.1、流域概要冒頭の文章に浦上川「水系」とあるが、庄手川の整備計画では「水系」とは記載されていない。水系の有無による違いは何か。 会長) 水系は支川も含めた連続した水域を指す。 事務局) P.1 の記述からは水系を削除する。</p> <p>会長) 資料-6、P.19、図 3-1 を作成する際は距離標を記載すること。また、P.14~15 の洪水被害の欄に今年度台風による被害も追記すること。 事務局) 修正する。</p> <p>委員) 都市下水路合流部の旧河川は整備対象区域か。 事務局) 旧河川は河川区域外のため整備対象外である。ただし流入量は考慮する。</p>
(5) 今後のスケジュール	<p>【事務局】 事務局より今後のスケジュールに関して説明 (資料-7)</p> <p>会長) 庄手川は住民説明会を行わない方向とのことだが、河川整備計画の策定は周知すること。 事務局) 今後、周知方法も含めて対応を検討する。</p>
6.閉会	<p>会長) 本日の意見を反映したうえで引き続きご検討いただきたい。 【事務局】 現地視察に続きまして、長時間にわたる審議ありがとうございました。</p>